

株式会社 鈴木楽器製作所 〒430-0852 静岡県浜松市中区領家2-25-12 ☎(053)461-2325
 鈴木楽器販売株式会社

事務所移転等のため、住所・電話番号が変わる場合がございます。
 最新の情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

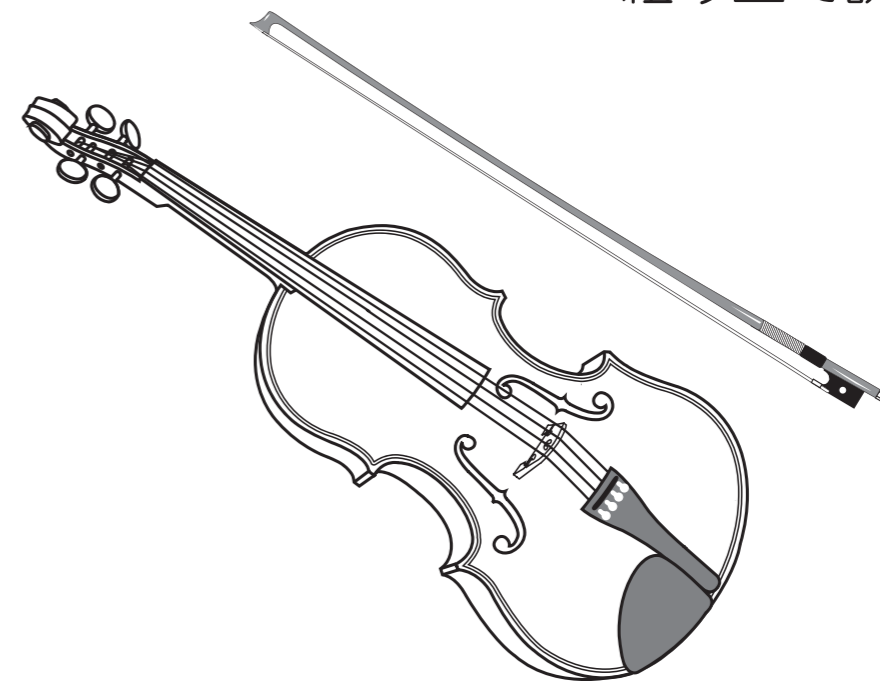
<http://www.suzuki-music.co.jp/>

メールでのお問い合わせは
 info@suzuki-music.co.jp

8109-5C-MS-MM-126-C
 00457-60011

バイオリン キット

組み立て説明書



注意 組み立てる前によく読んでください。

- 熱くなる場所は避けてください。
 自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなる場所での使用、保管は避けてください。
 変形・故障の原因になることがあります。
- 衝撃を与えないでください。
 製品をぶつけたり、落としたりしないでください。
 製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。
- 不安定な場所に置かないでください。
 製品を不安定な場所に置かないでください。転倒・落下して、お客さまが思わぬケガをする危険性があります。
- お手入れはやわらかい布で。
 お手入れはやわらかい布でカラ拭きしてください。
 アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないでください。

部品リスト

- | | |
|---|--|
| ① 本体
(天然木を使用の為、
一つ一つ木目が異なる
ことをご了承ください。) | ④ テールピース
テールピース …… 1
アジャスター …… 1
エンドピン …… 1 |
| ② 糸巻セット
糸巻E …… 1
糸巻A …… 1
糸巻D …… 1
糸巻G …… 1 | ⑤ 駒
駒 …… 1 |
| ③ あご当て
あご当て …… 1
あご当て金具 …… 1
コルクシート …… 1 | ⑥ 弦セット
E線(1-st) …… 1
A線(2-nd) …… 1
D線(3-rd) …… 1
G線(4-th) …… 1 |
| | ⑦ 付属品
弓 …… 1
松脂 …… 1 |

バイオリンの 組み立て方

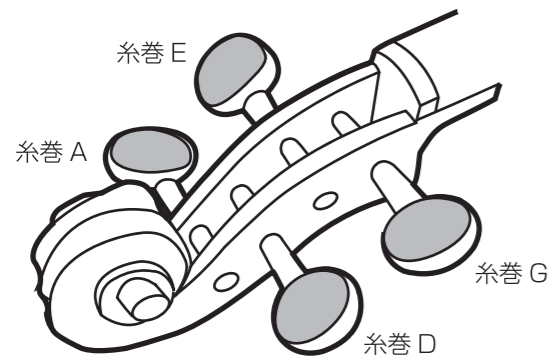
本体を着色する場合は
組み立て前に行ってください。

〈着色の仕方〉

- ① 着色面を#300以上のサンドペーパーで軽くまんべんなく研磨します。
- ② 着色部分以外は、マスキングテープで目隠しをします。
(棹の部分は通常着色しません。)
- ③ 市販の着色オイルステインをハケ塗り後布で拭き取るか、
あらかじめ布に染み込ませて刷り合わせる方法で着色します。
※ 上級者向けにセラックニスやラッカースプレーでも可能です。
用法や作業方法をよく理解してから行うようにしてください。
- ④ 日の当たらない風通しの良い場所によく乾かしてください。

① 糸巻(ペグ)を取り付ける

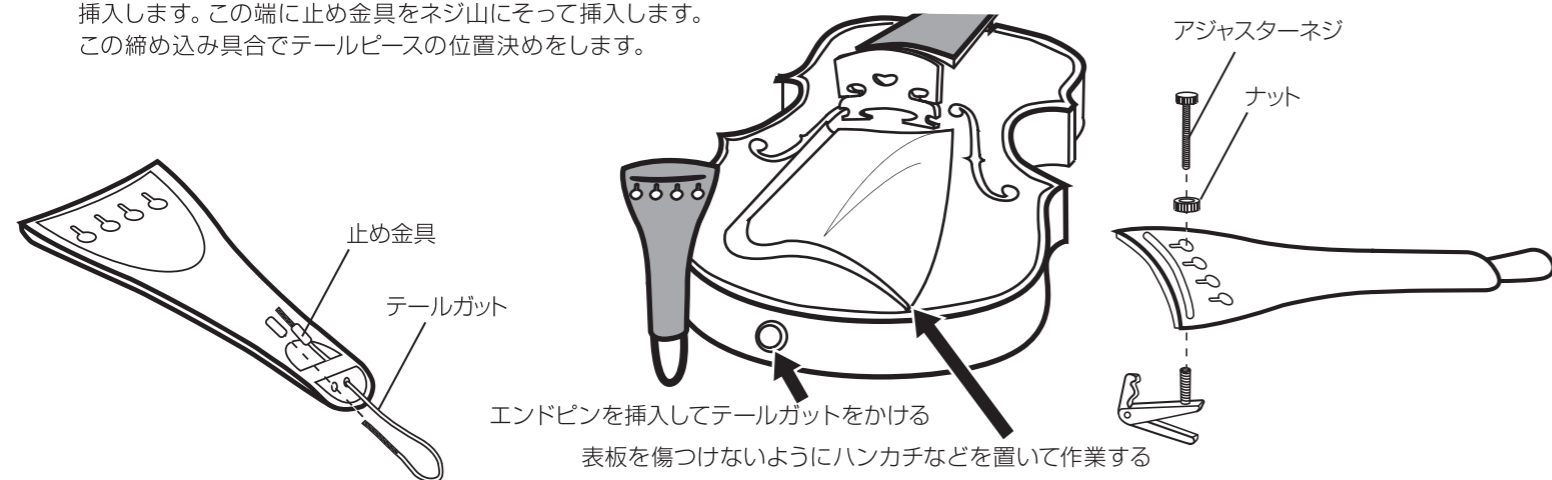
E、A、D、Gの音名が示してある糸巻を、糸蔵(ペグボックス)の各穴に挿入して取り付けます。



② テールピースを取り付ける

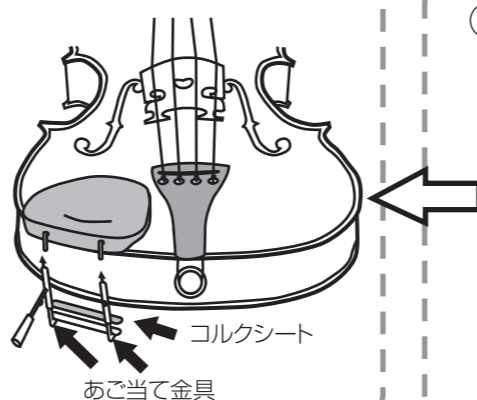
キット製品はテールガットとアジャスターが組み付けられています。本体にエンドピンを差し込み、テールガットの輪の部分を引き掛けます。

テールガットを最初から組み立てる場合は、まず、テールピースを裏返し、止め金具をゆるめてテールガットをはずします。つぎに、はずしたテールガットを同じ長さで折り返して穴に挿入します。この端に止め金具をネジ山にそって挿入します。この締め込み具合でテールピースの位置決めをします。



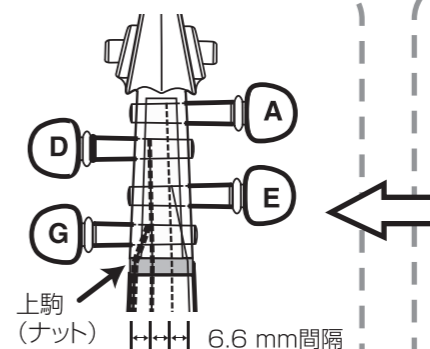
⑥ あご当てを本体に取り付ける

あご当ては図の位置に取り付けます。図のように、コルクシートを挟むようにあご当て金具を手で締め付けた後、穴にレンチかミニドライバーを通して回し、しっかり固定します。



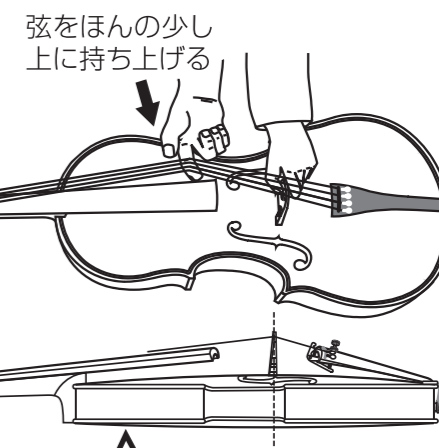
⑤ 弦の調整と確認

上駒(ナット)と駒上にあるE、A、D、G各線が均等に指板のセンターにくるように調整をします。上駒(ナット)上での各線の間隔は図のようになります。これが完了したら各弦の調律をします。



④ 駒を取り付ける

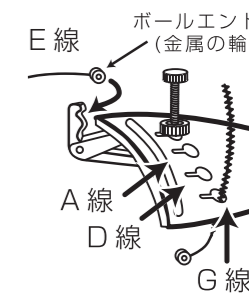
E、A、D、G各線をテールピースが止まる程度に張れたら駒を取り付けます。図のように4本の弦を持ち上げ、その下に駒をぐらさせるように差し入れます。駒の向きは4ページを参照ください。弦を強めに張ると駒が入りません。あくまでも仮に張る程度です。



③ 弦を取り付ける(巻き取る)

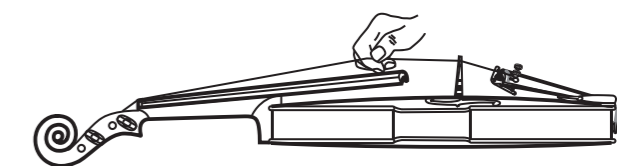
③-1 テールピースの穴に弦を通す

各線の端にはボールエンド(金属の輪)が巻きつけてあります。E線はボールエンドを図のように、アジャスターへ直接引っ掛けます。A、D、G線は、ボールエンドをテールピースの下側に隠れるように弦を各穴に通し、しっかり止まるように確認してください。



③-2 弦を糸巻で巻き取る

弦の先端には、糸が3cm程度巻きつけてあります。これを指先でつまんで、糸巻の穴に通します。先端を穴から2cm程度出し、弦を引っ張り気味に先端を押さえながら内から外へ巻き取ります。ピンセットを使うと楽に作業が出来ます。E、A線は右巻き、D、G線は左巻きと巻取り方向が逆になりますので注意してください。



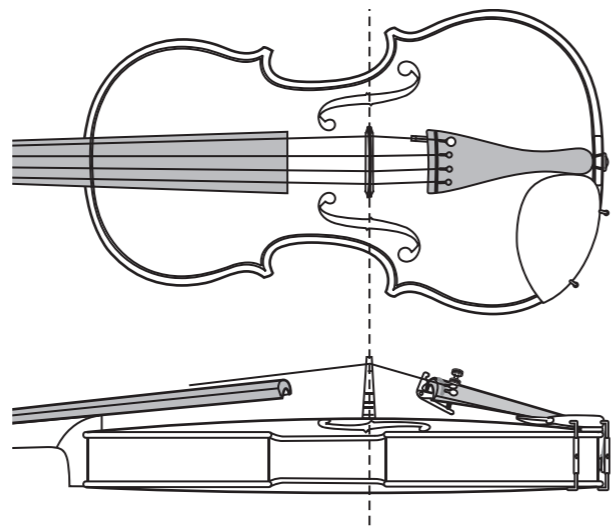
バイオリンを楽しく演奏するために

1、楽器の準備

○駒の位置と立て方

調弦する前に、駒を正しい位置に立てます。駒の位置と立て方は、参考図をよく見て確認をしてください。

駒はあらかじめ指板と弦の高さ（弦高）が適切になるように設定されています。駒は弦の振幅に合わせて低音側が若干高くなっています。調弦をする時には、必ず駒の状態を確認するようにしましょう。弦を張ると、駒が引っ張られて傾いてしまうことがあるので、垂直になるよう調整します。駒がまっすぐ垂直に立って、足が表板にしっかり接地することで美しい響きが得られます。



- ・ f 字の位置に合わせる
- ・ テールピース側から見た時に駒の短いほうが右側 (E線側) にくるように。

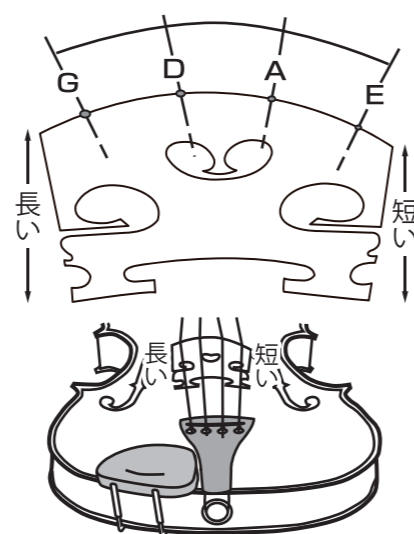
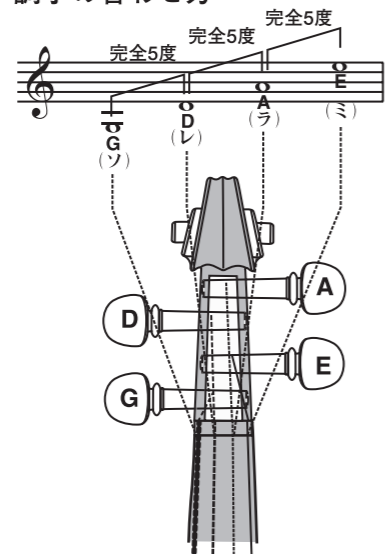
12mm 間隔

○4本の弦の関係(完全5度、E、A、D、G、を理解する)

4本の弦は、図に示されるように、完全5度の関係になっています。隣り合った弦を同時に鳴らして完全5度を確認しながら調弦することもできます。

弦はそれぞれの糸巻を回して調整をします。1 (E線)、2 (A線) 弦は右回し、3 (D線)、4 (G線) 弦は左回しで巻き上げると音が高くなります。糸巻は、やや穴に押し込むようにして回します。あまり強く押し込むと、きつくなってスムーズに回らなくなり、微調整がしにくくなります。逆に押し込みがゆるいと、張った弦の強さで巻きが戻ってしまいます。適度な巻き上げができるように慣れていきましょう。

調子の合わせ方



○調弦の実際(A(ラ)→D(レ)→G(ソ)→E(ミ))

最初のうちは、バイオリンを両膝の上に向き合うように立ててから、糸巻を回し、弦を指で弾いて音の高さを確認します。まず第2弦をA(ラ)の音に合わせます。次に第3弦をD(レ)に合わせます。続いて第4弦をG(ソ)、最後に第1弦をE(ミ)に合わせます。第1弦は糸巻での微調整がむずかしいのでアジャスターを使います。アジャスターのつまみを右に回すと少しずつ音が高くなります。

慣れてくるとバイオリンをあごにはさんで、左手で糸巻を回して合わせられるようになります。

音の高さを合わせるには、ピアノ、音叉、調子笛や電子式チューナーを使用します。

左手で糸巻を回す

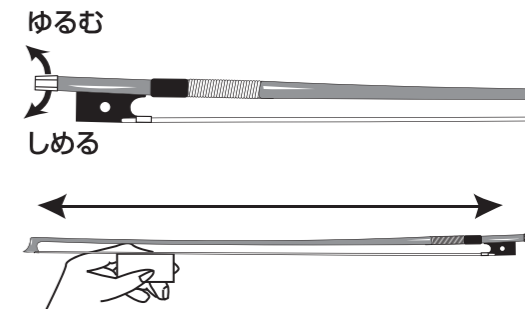


右手親指で弦をはじく

○弓と松脂の使い方

弓は使う時以外は、緩めておきます。弓を張る場合、根元のつまみを右に回します。張る目安は、中弓(弓の中央部)で毛と棹の間隙が小指一つ分(7~9mm)くらいになります。

バイオリンは弓を弦にこすり合わせる時の摩擦によって美しい響きを出します。そのために、弓の毛の表面に松脂を塗ります。最初松脂が固くなっていると、毛にうまく付きにくいことがあります。この場合は、サンドペーパーなどであらかじめ松脂の表面を軽くこすります。弓を弦の上において軽く引いて滑らずに自然に綺麗な音が出る状態を目安にします。はじめて使う時は時間をかけてムラのないようたっぷり松脂を付けますが、付けすぎると余分な松脂が飛び散り楽器が汚れるので注意しましょう。

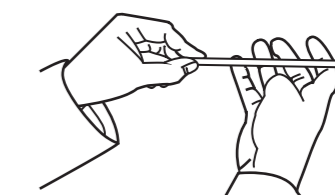


弓の毛を手に持った松脂の上ですり合わせる

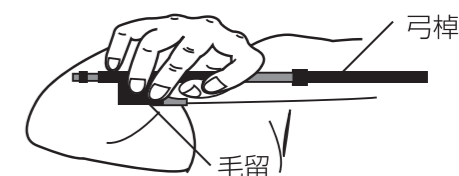
2、演奏をはじめの準備

○弓の持ち方

弓は右手で柔らかく包み込むようにして持ちます。まず手のひらをひろげて、人差し指の第1関節と第2関節の真ん中から小指の先端の線上に弓の棹があてがいます。ここで大事な役目をするのは、親指と中指です。親指をややくの字にして毛留の内側にあてがって、中指をはさむように持ちます。薬指は中指に添えるだけです。小指の先端を軽く弓棹の上におきます。人差し指は、中指と指一つ分間をあけて自然に弓棹にのせます。



手のひらから見た弓の持ち方



正面から見た弓の持ち方

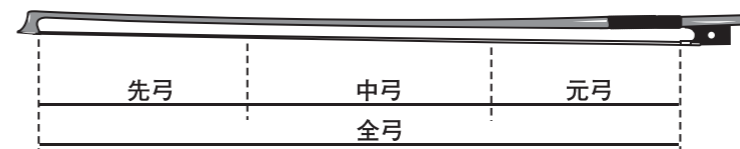
○構え方と姿勢

楽な姿勢で両足をややひらいて、幾分左足を前にして力を抜いて自然体で立ちます。左手はバイオリンの先端を軽く握って持ちます。あごをあご当てにのせ左鎖骨との間にはさみます。バイオリンは、左前方45度の方向に向けます。あごでしっかりととはさんで固定すると、左手は添えるだけの感じになります。肩当てを付けると容易にあごと鎖骨で固定しやすくなります。ハンカチやハンドタオルで代用することもできます。



○Bowling (ボーイング、運弓法)

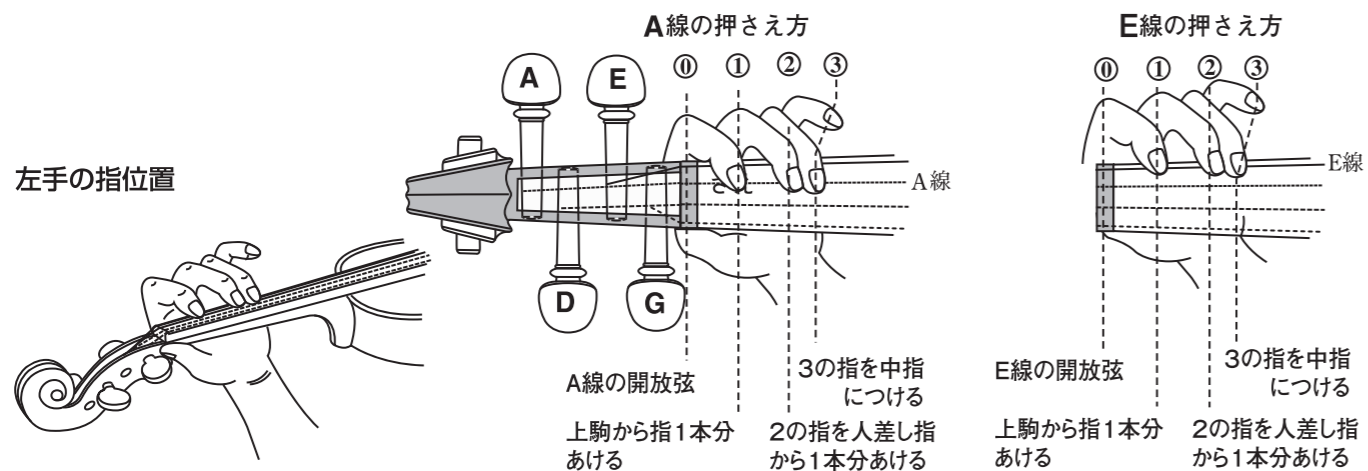
弓は駒と指板の間の真ん中付近を弦と直交させて、弾く弦の上を上下に移動させすり合わせます。弓についてはすべての部分を全弓、それぞれを先弓、中弓、元弓とよんで3等分して表します。この弓位置によって弾き方や音色が微妙に変化します。この変化がバイオリンの多彩な表現を可能にします。



弓を上下に動かす
肩の力を抜いて
リラックスしてください

○指位置と押さえ方

バイオリンの棹の部分（ネック）を左手親指と人差し指の間に支えるように軽く握ります。親指以外の指で弦を押さえていきます。ここで指番号を確認しておきましょう。4本の指にはそれぞれの番号が付けてあります。タブ譜の表記を参考にしてください。それではまずイ長調の音階A線のA(ラ)→B(シ)→C#(ド#) D(レ)の運指を覚えましょう。第2弦の開放弦がA(ラ)になります。上駒から指1本分あげた位置がB(シ)です。この位置を人差し指(1)で押さえます。人差し指から指1本分あげた位置を中指(2)で押さえます。この位置がC#(ド#)になります。こんどは半音の為、薬指(3)を中指につけます。この位置がD(レ)になります。

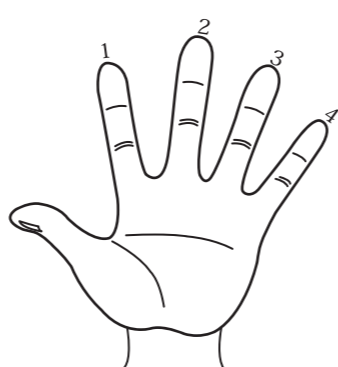


○タブ譜の読み方

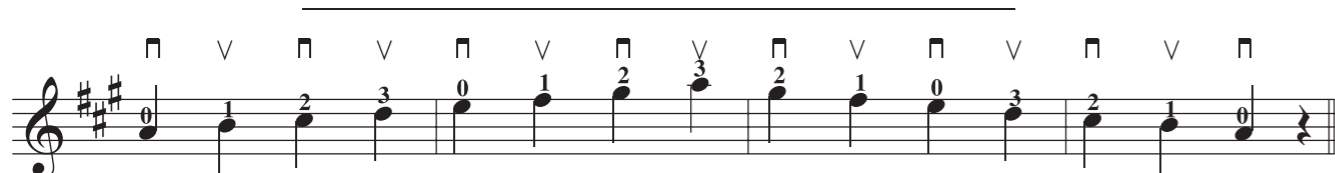
最初は、タブ譜で練習します。まずタブ譜には、弓の動きを示す運弓記号が音符の上につけてあります。下げ弓(Down bowing)記号と上げ弓(Up bowing)記号です。下げ弓は、手首を下方に引き気味に弓を下げてください。逆に上げ弓は、手首をやや上に引き上げる気持ちで弓を上げます。弦に対して直交させることを忘れないでください。音符に指番号が付記されています。どの指で押さえるかをこの指番号(1~4、図を参照)で判断します。タブ譜を理解して、イ長調の音階を練習しましょう。

▣ 下げ弓(Down bowing)
 ▽ 上げ弓(Up bowing)

指番号



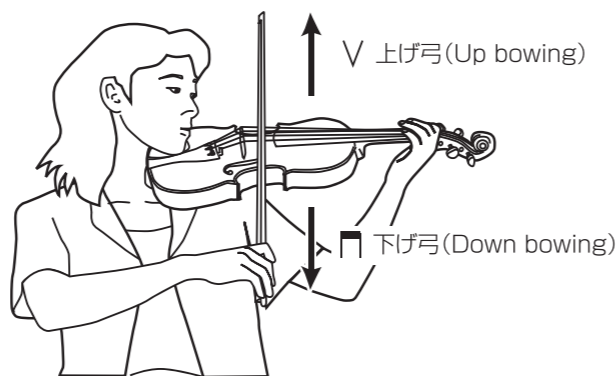
イ長調1オクターブの音階練習



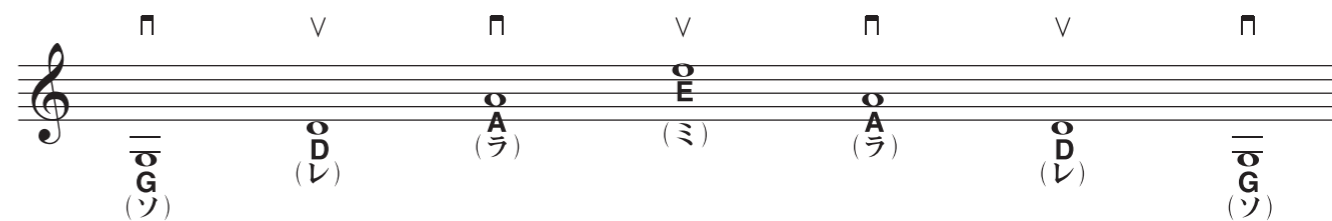
3. 演奏の実際

開放弦を使って正しいBowlingの練習をしましょう

1. 中弓を使うBowlingの練習
2. 中弓と先弓を使うBowlingの練習
3. 中弓と元弓を使うBowlingの練習
4. 全弓を使うBowlingの練習



開放弦を使うBowlingの練習



イ長調の運指を基本にした課題曲を練習しましょう

練習課題曲1 きらきら星

フランス曲



練習課題曲2 草競馬

フォスター
次の下げ弓の準備をします

